



全日病 S-QUE 看護師特定行為研修

臨床薬理学

共通科目



1.薬物動態の理論と演習 演習

杏雲堂病院 診療技術部部长/薬剂科科长

大谷 道輝 氏

演習1：輸液投与速度間違い

患者：79歳男性、末期がん患者 入院患者

輸液1200mLの投与において、輸液ポンプの設定を指示の25.3mLと入力すべきところ253mLと10倍の速度を入力して投与した。

指示は48時間の投与であったが、5時間で投与を終了した。終了直後に患者の容態が急変し、2日後に亡くなった。

演習1：以下の問題について考えて下さい。

- 1.患者が死亡した原因は何で、何と呼ばれる現象ですか？
- 2.投与速度に注意すべき注射薬を5つ選び、急速静注による副作用を考えてください。
- 3.カリウム製剤の投与時の注意点を挙げて下さい。

演習2：アセトアミノフェンの剤形変更

患者：75歳女性、末期がん患者 入院患者

がんによる疼痛緩和目的で、緩和ケア病棟に入院中の患者が、急性上気道炎で発熱していたが嚥下困難となり、カロナール錠(アセトアミノフェン)から注射薬へ変更となった。カロナール錠の処方は以下の通りである。注射薬の投与量を考えて下さい。

Rp：カロナール錠500mg 頓用 1日2回まで